



Newsletter

No.26 (2011.10.25 発行)

東日本大震災についてのお見舞い

さる3月11日の東日本大震災に被災された方々に心よりお見舞い申し上げ、亡くなられた方々に哀悼の意を表します。一日も早い復興がかないますようお祈りいたします。

2011年度総会

昨年度は総会を10月にして好評だったかと思いますが、今年は諸事情から、2012年3月に開催いたします。次号で詳細をお伝えしますのでよろしく願いいたします。

日本学術会議 第22期新会員決まる

日本学術会議第22期の新会員が10月発令されました。女性は49名(210人中)23.3%でした。次の方々です。(※は新規 無印は21期から継続)

秋田 喜代美	浅倉むつ子	石井 志保子	石川 幹子	伊藤 早苗
猪口 邦子	井野瀬 久美恵*	上野 千鶴子	碓井 照子	江原 由美子
大沢 真理	大隅 典子	太田 喜久子*	小川 宣子	翁 百合
苧阪 満里子*	落合 恵美子	小幡 純子*	戒能 民江	春日 文子
川合 眞紀*	木下 尚子	倉田 のり*	栗原 和枝	黒田 玲子
後藤 弘子*	酒井 啓子	白田 佳子	白鳥 敬子	鈴木 晶子
田口 紀子	田島 節子*	辻村 みよ子	津谷 典子	土井 美和子*
富樫 かおり	仲 眞紀子*	永原 裕子	那須 民江*	西澤 直子
野村 眞理	羽場 久美子*	深川 由起子*	本間 さと*	室伏 きみ子
桃井 眞里子*	山本 眞鳥	鷺谷 いづみ	渡辺 美代子	

加賀谷淳子会員の訃報

長い間 JAICOWS の役員を務められた加賀谷淳子会員(日本学術会議第20期第二部会員、元日本女子体育大学学長、スポーツ科学)が7月24日に71歳で亡くなりました。

このニュースの20号でもご紹介したとおり、長い間運動と筋血流の関連などの研究に取り組み、その功績により第10回秩父宮記念スポーツ医・科学賞の功労章を受章されています。

「研究者としては皆平等、真理の前に教授も学生もない」という姿勢を貫かれ、「この姿勢を貫くために一番大変な目に会ったのは、(授業や会議に多くの時間を割かれる)私自身であった」とエッセイに書かれたように、最後まで研究者としての真摯な探求心と後輩への温かいまなざしを注がれた方でした。

謹んで、哀悼の意を表し、JAICOWSからお花を献花させていただきました。

2010年度会計報告

ワールドプランニングより、2010年度の会計決算報告（2011年3月31日現在）を入手したので掲載します。
（2011年3月31日現在）

1. 収入の部

（単位:円）

勘定科目	①予算額	②決算額	差異(②-①)	備考
繰越金	451,694	451,694	0	
会費	650,000	626,000	△24,000	108人分 (90%)
利子	300	135	△165	
寄附	0	100,000	100,000	ワールドプランニング
収入合計	1,101,994	1,177,829	75,835	

2. 支出の部

勘定科目	①予算額	②決算額	差異(①-②)	備考
通信費	30,000	6,600	23,400	要望書発送費, 総会はがき代等
Newsletter印刷費	170,000	50,400	109,040	No.25
Newsletter発送費		10,560		
行事費	50,000	20,000	30,000	講師謝金等
会議費	25,000	13,950	11,050	弁当代等
交通費	10,000	0	10,000	
学会業務委託費	420,000	420,000	0	
予備費	306,994	1,575	305,419	振込手数料等
支出合計	1,101,994	523,085	488,909	
次年度繰越金		654,744		

2011年3月31日現在 会員数 120名

馬場房子先生に監査をしていただきましたのでご報告します。

2010年度 入会・退会者

入会者：1名	会員番号	氏名	入会日
	0230	跡見 順子	2010/11/10
退会者：10名	会員番号	氏名	退会日
	0017	磯野 弥生	2010/05/31
	0045	岸 玲子	2010/04/01
	0047	木野内 清子	2010/04/11
	0064	酒井 豊子	2010/04/01
	0075	志村 純子	2010/07/30
	0088	時子山 ひろみ	2010/04/30
	0102	西川 純子	2010/06/01
	0138	山本 雅代	2011/04/01
	0160	鷺谷 いづみ	2010/09/28
	0205	宇高 恵子	2011/03/04
物故：2名			
	0119	増井 光子	2010/07/13
	0132	森島 啓子	2010/11/30

日本スポーツとジェンダー学会第10回記念大会の後援

JAICOWS は、日本スポーツとジェンダー学会第8回・第9回大会に引き続き、第10回記念大会の後援を行いました。以下に学会大会の概要をご報告いたします。

日 時 2011年7月2日（土）13:00 ～ 7月3日（日）16:00
会 場 中京大学名古屋キャンパス0号館（センタービル）7階ほか

大会テーマ 「スポーツとジェンダー研究の現状と展望」

7月2日（土）

基調報告 「日本スポーツとジェンダー学会 — 10年の総括と課題」

- ・ 学会活動のこれまでの10年、これからの10年 井谷恵子（京都教育大学）
- ・ 会員アンケート結果から 水野英莉（岐阜医療科学大学）・木村華織（中京大学大学院）
- ・ SPORTDiscus の分析 高峰 修（明治大学）・田原淳子（国士舘大学）・來田享子（中京大学）

基調講演 「IOC の立場からみた女性とスポーツに関する国際情勢と施策」

Gudrun Doll-Teppler（ベルリン自由大学教授、IOC 女性とスポーツ委員会委員、ICSSPE 前会長、2009年Paralympic Scientific Award 受賞）

7月3日（日）

シンポジウム「ジェンダー研究のフロンティアスポーツにおける性別二元論の行方」

- ・ 性分化疾患とスポーツ — 何が問題か？ 難波 聡（埼玉医科大学産婦人科）
- ・ スポーツは性別二元論を超克するのか？ 山口理恵子（城西大学）
- ・ 国内外のスポーツにおける“性差認識”と課題 荒木香織（兵庫県立大学）

コーディネーター 井谷恵子（京都教育大学）
ディスカッサント 福富 護（東京学芸大学名誉教授）

ラウンドテーブル「スポーツ・ジェンダー研究と実践を結ぶ」

I. スポーツにおける性の多様性とその未来：学校教育とセクシュアル・マイノリティ

- ・ 報告 1：当事者が語る、日本におけるトランスジェンダーの今 杉山文野（フェンシング元日本代表）
- ・ 報告 2：海外で先駆的に取り組まれたガイドラインの一例
レポート “On the Team: Equal Opportunity for Transgender Student Athletes” から
井谷聡子（トロント大学）
コーディネーター 藤山 新（東洋大学現代社会総合研究所）

II. 組織におけるジェンダー平等：ポジティブ・アクション再考

- ・ 報告 1 : スポーツ組織における平等の達成とポジティブ・アクション — 参加・パフォーマンス・政策
建石真公子 (法政大学)
 - ・ 報告 2 : 多様な人材を活かす組織マネジメント — ダイバーシティ・マネジメントからポジティブ・アクションを考える
木谷 宏 (麗澤大学)
- コーディネーター 飯田貴子 (帝塚山学院大学)

大会会場には、東日本大震災で被災された方々へのご支援として募金箱が設置され、ご支援いただいた金額は、Japanese Organization for International Cooperation in Family (ジョイセフ) に送付されました。

同団体は、通常、国際協力 NGO として途上国の女性と妊産婦の命を救う活動を行なっていますが、現在、日本の被災地の女性や妊産婦への支援活動も行なっています。

(報告：国土館大学 田原淳子)

JAICOWS 役員会報告

日時 2011年10月5日(月) 18:00 ~ 20:00
場所 専修大学 8号館 5階 5A 会議室
出席役員 岩井宜子、国枝たか子、田原淳子、袖井孝子
西川朱實、原ひろ子 直井道子 (順不同・敬称略)

議 事

1. 今後の JAICOWS のあり方について

会員数の減少が続くことや、日本学術会議内にもジェンダー関連の分科会などが立ち上がっていることなどを背景に、今後の JAICOWS のあり方について、使命は達成されたとして解散する可能性から、広く女性研究者一般に会員資格を広げる可能性までを含めて役員で議論しました。

結果として、女性研究者の環境改善にはまだ多々の課題(総合科学技術会議、男女共同参画会議その他)があること、日本学術会議関連に限定すれば、女性の会員数は多少増えたものの、連携会員数の中の女性はまだまだ少ないことなどを理由としてまだ使命は終わっていないとして、活動を継続することにしました。

また、会員資格を女性研究者全体に広げることに対しては、事務局体制などが追いつかないとして、安易には踏み切れないことを確認しました。

2. 新入会員への勧誘について

今回のニュースレターに、JAICOWS の入会申込書を同封いたしました。日本学術会議の第 22 期の会員・連携会員の会合に際して、JAICOWS 会員から入会申込書を適宜配布していただけるよう、お願いいたします。今後も新しい入会申込書をメールで送付したり、ニュースレターに同封する予定ですので、会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

3. 総会と講演会

来年 3 月に鳥居淳子会員にお話をいただくということで交渉中です。今後の講演会は日本学術会議のシンポジウムなどと合同で開催することも考えて、22 期の分科会が軌道に乗ったところに検討することにしました。

4. 今後の事務局体制について

まだ検討中ですが、長い間事務局を担当していただいた岩井宜子先生が今年度末に定年退職されることに備え、本ニュースレターに記載する事務局のメールアドレスはご自宅のものに変更してあります。

女性科学者のインタビュー・リレー 〔9〕

「国際私法に関連する法改正に携わって

— 男女平等を実現するために —

鳥居 淳子（成城大学名誉教授）



1. 日本国憲法と出会う

— なぜ、法律の分野を選んだのですか？

私が最初に会った法は、日本国憲法でした。

日本の敗戦の翌年、1946年11月3日に、新しい憲法が公布されました。私は名古屋市内の小学校の5年生でした。憲法の全文が新聞に掲載されると、担任の先生がこれをテキストにして授業をされたのです。これが法に触れるきっかけでした。

当時、私たち女子組は、町の公民館の2階和室で授業を受けていました。通っていた小学校の校舎は、戦災で焼けてしまったからです。先生は、憲法にも謳われている男女平等について話され、「これからは男女平等なのだから、女の子も男の子に負けないようにがんばらなくてはいけないよ」と、私たちを励まされました。この授業で、私は法律と男女平等の問題に興味を持ちはじめ、法律を勉強しようと思ったのです。

— とくに専門として国際私法に進まれたのはなぜですか？

名古屋大学の法学部で国際私法のゼミに入ったのは、駐留軍兵士と日本女性の内縁の結婚とか、二人の間に生まれた婚外子の国際的な養子縁組等の問題に関心をもっていたからです。

— 最近の関心では、国際結婚をした日本人女性が、外国人の夫の暴力に悩まされて、子どもを連れて帰国したため、夫から誘拐罪で訴えられるトラブルがあると聞いていますが。

ええ、問題になっています。今おっしゃった事件は刑事面でのお話ですが、この問題を民事面で解決しようとしている国際条約があります。それが、現在、日本がアメリカ、フランス、イタリア等の政府から、批准を求められている「子の奪取の民事面に関するハーグ条約」という条約です。

この条約は国際結婚が破綻したような場合に、親権、監護権をもっている一方の親のもとから、他方の親が、国境を越えて、子どもを連れ去ったというような場合、政府が関与して子を、原則として、元の居住国に返還するための手続きを定めた条約です。

国際私法というのは、国により法律が違っていることを前提にして、国際取引とか国際結婚のような、二つ以上の国に関係のある個人と個人の間での法律問題に適用されるのはどこの国の法かを決めるという役割を担った法律です。

現在のところ、世界に共通する一つの国際私法があるわけではなく、各国にそれぞれの国際私法があるにすぎません。ハーグ国際私法会議はこうした国により異なる国際私法の世界的統一を目指している会議です。

— 実に不思議なジャンルですね。私も、10余年間オリンピック関連組織の理事を勤めていました。200か国（国と地域）が加盟しているオリンピックでは、その場が国際間のトラブルの修羅場になってしまいます。台湾出場に中国がクレームをつけたこともありました。とくに「文化摩擦」は重要な問題です。

2. 法制審議会で、法の改正作業に参加する

—— 女性として初めて法制審議会の会長に就任されたのですね。

ええ、法制審議会では、日本の国際私法がその中に規定されている「法例」や「国籍法」の改正作業にも携わりました。

憲法では男女平等が謳われているのに、法例や国籍法の中には、男女を平等に扱っていない規定がまだありました。こうした規定は1980年代になってから改正されたのです。改正の大きな推進力になったのは、日本の「女性差別撤廃条約」への批准でした。

法制審議会のメンバーとして、私はこの二つの法律の改正作業のどちらにも直接かかわることができたことを、女性の研究者として嬉しく思っています。

3. JAICOWS の創設期について

—— 創設期については、一番が瀬康子先生や石井摩耶子先生の記事がインタビューとして会報に連載されましたが、鳥居先生のお話も聞かせてください。

1994年5月26日の第118回日本学術会議総会は「女性科学研究者の環境改善の緊急性についての提言」（声明）を採択しました。これを受けて第16期の女性研究連絡委員をふくむ有志がJAICOWSを創設したのです。

私が研究者になったばかりの半世紀前には、女性の法学研究者の研究職への就職は非常に厳しく、博士課程を終了しても研究職につけず、研究をあきらめざるを得なかった人も少なくありませんでした。

創設期に副会長を務めた私には、JAICOWSへの特別に強い思いがあります。今後も女性科学研究者の環境改善のために活動してほしいと願っています。 (完)

(インタビューは国枝たか子による)

(この号は、桜美林大学大学院の直井が係りでした。)

連絡先：女性科学研究者の環境改善に関する懇談会（JAICOWS）事務局
〒101-8425 東京都千代田区神田神保町 3-8
専修大学法科大学院 岩井宜子
E-mail：yos-iwai@nifty.com <http://jaicows.fc2web.com/>

事務センター：〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル
株式会社ワールドプランニング
Tel 03-5206-7431 Fax 03-5206-7757
E-mail：world@med.email.ne.jp

郵便振替 口座番号 00100-8-542793